

## 名称 バクモンドウ

他名等 コヤブラン、ジャノヒゲ、ヤブラン、リュウノヒゲ

部位等 根の膨大部 備考

学名(科名) ①*Ophiopogon japonicus* Ker-Gawler [局方], ②*Liriope platyphylla* Wang. et Tang. [新訂和漢薬 p 567], ③*L. spicata* Lour. [和漢百科図鑑 I p 67] (Liliaceae) ユリ科

生薬名、基原植物和名等 ①ジャノヒゲ [局方、新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 630]、リュウノヒゲ (ジャノヒゲの別名) [園芸植物大事典 2 p 555]、②ヤブラン [新訂和漢薬]、③コヤブラン [和漢百科図鑑 I]

生薬名：麦門冬 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

鎮咳、去痰などに麦門冬 1 日量 7-10 g に 400~500 mL の水を加え、半量になるまで煎じつめ温めて 3 回に分けて服用する [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

210 処方中の配合処方：(15 処方) 温経湯、滋陰降火湯、滋陰至宝湯、炙甘草湯、辛夷清肺湯、清肺湯、清肌安蛔湯、清暑益気湯、清上燭痛湯、清心蓮子飲、竹茹温胆湯、鈎藤散、麦門冬湯、補気建中湯、補肺湯

毒性データ (LD50 等) root extract: LD50 20.6 g/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

ophiopogonins A-D [Watanabe, Y. *et al.* *Chem. Pharm. Bull.*, 25, 3049 (1977)], oligosaccharide, ophiopogonanone A, B [homoisoflavonoids: Tada, A. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, 28, 2039 (1980)], C, D, E, F [Chang, J.-M., *et al.*, *J. Nat. Prod.*, 65, 1731(2002)].

主要な生理活性

鎮咳、去痰、緩和作用が認められ、粘滑性消炎、強壯、去痰、鎮咳薬として咳止め、去痰、滋養強壯などに用いられる [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 80

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：B

局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、重要生薬であることから専ら医薬品とすることが望ましい。

## 名称 ハゲキテン

### 他名等

部位等 根 備考

学名(科名) *Morinda officinalis* How. (Rubiaceae) アカネ科 [中薬大辞典 p 2117, CP, 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 498]

生薬名、基原植物和名等 モリンダ・オフィシナリス [新訂牧野和漢薬草大図鑑] 生薬名：巴戟天 [中薬大辞典]

医薬品として使用実態があるか Yes (一般薬の配合生薬として承認されている [ナンパオ、田辺等])  
補腎、強壯に巴戟天 1 日量 3~10g を煎じて服用する [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

### 毒性データ (LD50 等)

同属植物 *M. lucida* Benth, extract LD50 >500 mg/kg (rat, ip), *M. citrifolia* L., extract LD50 7500 mg/kg (mouse, ip), *M. umbellata* L., extract LD50 >1 g/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No  
主要な二次代謝産物等

morindolide morofficaloside, 1-hydroxy-2,3-dimethoxyanthraquinone [Yoshikawa, M. *et al. Chem. Pharm. Bull.*, 43, 1462 (1995)], rubiadin, rubiadin-1-Me ether, 1-hydroxyanthraquinone, 1-hydroxy-2-methylanthraquinone, 1,6-dihydroxy-2,4-dimethoxyanthraquinone, 1,6-dihydroxy-2-methoxyanthraquinone, 1-hydroxy-2-methoxyanthraquinone, physcion [Yang, Y. J. *et al. Yaoxue Xuebao*, 27, 358 (1992)]

### 主要な生理活性

巴戟天のエタノールエキスは試験管内で枯草菌に対して抑制作用がみられる。強壯薬としてインポテンツ、婦人の寒冷による不妊症、リウマチ、脚気などの疼痛に用いられる [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

### 重要文献

1) Yang, Y. J. *et al. Yaoxue Xuebao*, 27, 358 (1992)

### その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 77

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

### 評価：A

発ガン性が確認された西洋アカネ中に存在する強い変異原性物質であるアントラキノン類を多種含有しており安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品とすべきである。

## 名称 ハシリドコロ属

他名等 ハシリドコロ、ロート根

部位等 根 備考

学名(科名) ①*Scopolia japonica* Maxim, ②*S. carniolica* Jacquin, ③*S. parviflora* Nakai (Solanaceae) ナス科  
[①-③局方(ロートコン)]

生薬名、基原植物和名等 ①ハシリドコロ [局方]

新訂牧野和漢薬草大図鑑では *Scopolia* 属をハシリドコロ属との記載がある。

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

ロートエキスまたは硫酸アトロピンの原料となる。

毒性データ (LD50 等) エキス : LD50 1275 mg/kg (mouse, po),

atropine sulfate monohydrate: LD50 723 mg/kg (mouse, sc); LD50 56 mg/kg (mouse, iv)

atropine hydrochloride: LD50 240 mg/kg (mouse, ip), atropine sulfate (1:1): LD50 78 mg/kg (mouse, iv)

(-) hyoscyamine: LD50 95 mg/kg (mouse, iv), (+) scopolamine: LD50 154 mg/kg (mouse, iv)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

scopolamine, hyoscyamine, atropine, apoatropine, scopadonnine, scopine, scopoline

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

scopolamine, hyoscyamine, atropine, apoatropine (tropan alkaloids)

主要な生理活性

ロートエキスは消化液分泌抑制、鎮痙作用があり、胃酸過多、胃痛、胃・十二指腸潰瘍などに内服され、また硬膏、軟膏、座薬などに外用される。瞳孔の散大を起こす。硫酸アトロピンは約0.1%の溶液で瞳孔を散大させる作用があり、眼科治療には欠かせない。臭化水素酸スコポラミンは鎮静催眠剤としてモルヒネ嘔吐、船酔い、無痛分娩に使用される [新訂牧野和漢薬草大図鑑 P 473]。

重要文献

Dictionary of Plant Toxins 他

その他注意すべき点

ハシリドコロは全草、特に根茎に有毒成分が多く、誤って食べると興奮、狂騒状態を引き起こし、ついに昏睡して死に至る。春先に山間地に山菜と間違っ食べ中毒を起こすケースが多い。誤食すると所きらわず走り回ることからハシリドコロの名が付いた。

Botanical Safety Handbook Class 3 (*Scopolia carniolica* Jacq.) p. 105

The Complete German Commission E Monograph p. 202 *Scopolia* root (*S. carniolica*)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) 含む

scopolamine, hyoscyamine

評価: A

劇薬相当のアルカロイド (hyoscyamine) が含有されており専ら医薬品と考えられる。

## 名称 ハズ

### 他名等

部位等 種子 備考

学名(科名) *Croton tiglium* L. トウダイグサ科 (Euphorbiaceae) [赤松和漢薬、中薬大辞典]

生薬名、基原植物和名等 ハズ [赤松和漢薬]

医薬品として使用実態があるか No

峻下薬、吐薬として用いられていたが、現在では薬用利用されない。神農本草経の下品であり、生理作用が強烈であるので使用上細心の注意が必要である。

毒性データー (LD50 等)

Croton oil: LD<sub>50</sub> = 60 mg/kg (frog, i.p.); LD<sub>70</sub> = 3.74 mg/kg (mouse, subcutaneous) LD<sub>50</sub> はさらに低いので毒薬。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

発ガンプロモーター作用を持つホルボールエステル類

Phorbol and its esters: phorbol, phorbol 12-tiglate 13-decanoate, 12-tetradecanoylphorbol 13-acetate (phorbol ester A<sub>1</sub>), phorbol ester A<sub>2</sub>, A<sub>3</sub>, A<sub>4</sub>, B<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>, B<sub>3</sub>, B<sub>4</sub>, B<sub>5</sub>, B<sub>6</sub>, B<sub>7</sub>

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

fatty acids and their glycerides: crotonic acid, tiglic acid

nucleoside: crotonoside

毒性タンパク質 crotin、ricin 類似物質 croton-albumin

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p267) , 原色和漢薬図鑑 (上 p196) , Phytochemical Dictionary 2<sup>nd</sup> Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : A

毒薬相当の毒性があり、発ガンプロモーター作用を持つホルボールエステルを含む。

## 名称 ハマメリスヨウ

他名等 ハマメリス 英名 witch hazel [Com E p 231]

部位等 葉 備考

学名(科名) *Hamamelis virginiana* L. (Hamamelidaceae) マンサク科 [Com E, 日本薬草全書 p 597, 新日本法規出版]

生薬名、基原植物和名等 アメリカマンサク [日本薬草全書] アメリカマンサクの葉を乾燥したものをハマメリス葉という [日本薬草全書]

医薬品として使用実態があるか Yes Com E 収載

我が国ではマンサク (*Hamamelis japonica* Sieb. Et Zucc.) が民間薬として下痢止め、皮膚炎、扁桃腺炎、口内炎に用いられている。

毒性データー (LD50等)

Leaf extract: LD50 4510mg/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No  
主要な二次代謝産物等

3-galloylprodelphinidin B2 [Makhmatkulov, A. B. *et al.*, *Chem. Nat. Compd.*, 30, 214-222 (1994)],

2',4-di-*O*-galloyl-D-hamamelopyranose, 2',3,5-tri-*O*-galloyl- $\alpha$ -D-hamamelofuranose,

4-hydroxybenzoyl-2',3,5-tri-*O*-galloyl- $\alpha$ -D-hamamelofuranose,

4-hydroxybenzoyl-2',3,5-tri-*O*-galloyl- $\beta$ -D-hamamelofuranose, 2',5-di-*O*-galloyl- $\beta$ -D-hamamelofuranose

(hamamelitannin) [Mayer, W. *et al.*, *Annalen*, 688, 232 (1965), Nonaka, G. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, 32, 483

(1984)], 3'-(4-hydroxybenzoyl) procyanidin B1 [Hartisch, C. *et al.*, *Phytochemistry*, 42, 191 (1996)], hamamelose

主要な生理活性

タンニンに収れん作用が認められる。

重要文献

その他注意すべき点

インターネット等に化粧品として多くの記載がなされている。

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 59

The Complete German Commission E Monographs p 231

(平成17年度の報告書も参考のこと)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: E

アルカロイド等の問題となる成分は含有しておらず、また BSH、Com E においても安全性に問題となるような記載がないことから食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。

## 名称 バリエラ属

他名等 バリエラ、パレイラ根

部位等 樹皮・根 備考

学名(科名) *Chondrodendron* spp.または*Chondodendron* spp. [ブラジル産薬用植物事典(橋本梧郎、アボック社)]

生薬名、基原植物和名等 原産国ブラジルではパレイラ、アブツアと呼ばれる。平凡社世界大百科事典ではバリエラの記述があり、ポルトガル語 *pareira* に由来する、としている。

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載の塩化ツボクラリンの原料

毒性データ(LD50等) Extract of *Chondodendron limacifolium*: LD<sub>50</sub> = 2 g/kg (mouse, subcutaneous)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

bisbenzylisoquinoline alkaloids: (+)-tubocurarine, (+)-bebeerine, isochondrodendrine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

Phytochemical Dictionary 2<sup>nd</sup> Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

属名は *Chondrodendron* spp.または*Chondodendron* spp.の両者とも広く用いられており、The International Plant Names Index (<http://www.ipni.org/index.html>)や The Dictionary of Plant Toxins で両者とも用いられているので、両方を規定すべきである。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) Yes

塩化ツボクラリンは毒薬であり、また指定医薬品である。

評価: A

毒薬であり指定医薬品である(+)-tubocurarineを含むため、使用には注意を要する。なお、名称「バリエラ属」はほとんど用いられないので、コンドデンドロン属あるいはコンドロデンドロン属に変更するのが適当と思われる。

名称 ハルマラ

他名等

部位等 種子 備考

学名 (科名) *Peganum harmala* L. (Zygophyllaceae) ハマビシ科[Dictionary of Plant Toxins]

生薬名、基原植物和名等

医薬品としての使用実態があるか No

毒性データ (LD<sub>50</sub> 等)

Seed extract: LD<sub>50</sub> = 450 mg/kg (mouse, route unreported) Extract: LD<sub>50</sub> > 500 mg/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

quinoline alkaloids: peganine, vasicinone, deoxypeganine, deoxyvasicinone

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes

indole alkaloids: harmaline (hallucinogenic), harmine (hallucinogenic at high doses), tetrahydroharmine (hallucinogenic)

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

Phytochemical Dictionary 2<sup>nd</sup> Edition (harmaline などの幻覚作用), Dictionary of Plant Toxins (harmaline などの幻覚作用)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

向精神薬の類似化合物であるハルマリンを含む。

## 名称 ハンゲ

他名等 カラスビシャク

部位等 塊茎 備考

学名(科名) *Pinellia ternata* Breitenbach (Araceae) サトイモ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 カラスビシャク [局方] 生薬名 半夏 [局方]

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

漢方 210 処方中に 48 処方 (温経湯、温胆湯、延年半夏湯など)

毒性データ (LD50 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes

含有量は 0.002% と低いが、ephedrine を含む。[Oshio *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* 26, 2096 (1978)]

主要な二次代謝産物等

homogentisic acid, homogentisic acid glucoside, 3,4-dihydroxybenzaldehyde, 3,4-dihydroxybenzaldehyde diglucoside, choline

[牧野和漢薬草大図鑑 (p608), 原色和漢薬図鑑 (上 p46), 第 3 版生薬学 (廣川書店)]

主要な生理活性

重要文献

Oshio *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* 26, 2096 (1978)

その他注意すべき点

生の塊茎にはシュウ酸カルシウム (劇物) が含まれており、生食すると口腔内に炎症を起こす。

Botanical Safety Handbook Class 2b (一部の資料で妊娠時の禁忌が記載されている); 2d (出血時や血液疾患のある患者には禁忌。)

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) Yes

塩酸エフェドリンは劇薬・要指示医薬品・覚せい剤原料である。

評価: A

劇薬・要指示医薬品・覚せい剤原料である ephedrine を含む。



## 名称 ヒマシ油

他名等 トウゴマ、ヒマ

部位等 種子油 備考

学名(科名) *Ricinus communis* Linné (Euphorbiaceae) トウダイグサ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 トウゴマ [局方] (ヒマ [牧野和漢薬草大図鑑])

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

毒性データ (LD<sub>50</sub> 等)

Reproductive data of seed extract: TDLo = 400 mg/kg (rabbit, intramuscular) Extract: LD<sub>50</sub> = 3g/kg (mouse, oral); LD<sub>50</sub> = 340 mg/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

毒性タンパク質: ricin (LDLo = 0.3 mg/kg (man, oral); LD<sub>50</sub> = 2 μg/kg (mouse, i.p.))

ピペリジンアルカロイド: ricinine (LD<sub>50</sub> = 25 mg/kg (mouse, subcutaneous))

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

酸: ricinoleic acid, other common fatty acids, 9,10-dihydroxystearic acid, glyoxylic acid, pimelic acid, sebaic acid

グリセリド: glycerides of ricinoleic acid and stearic acid, glycerides of 9,10-dihydroxystearic acid

タンパク質: lipase, globulin, nuclealbumin, glucoprotein,

ジテルペノイド: casbene

ガロタンニン: corilagin

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p276), 原色和漢薬図鑑 (上 p306), Phytochemical Dictionary 2<sup>nd</sup> Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 2b, 2d (腸閉塞、原因不明の腹痛に禁忌。8-10日以内の短期投与にすべきである。) 標準的な投与量は大人が 5~20 ml で 60 ml を超えない。子供が 4~12 ml

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

原料の種子には毒薬相当のタンパク質 ricin と同じく毒薬相当のアルカロイド ricinine が含まれる。また、峻下薬であり、使用には注意が必要である。

## 名称 バクシ

他名等 ヨロイグサ

部位等 根 備考

学名(科名) *Angelica dahurica* Bentham et Hooker (Umbelliferae) セリ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ヨロイグサ [局方] 生薬名 白芷 [局方]

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

漢方 210 処方中に 8 処方 (藿香正気散、荊芥連翹湯、五積散など)

毒性データ (LD<sub>50</sub> 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

furocoumarins 0.1~0.2%: byakangelicol, imperatorin(LD<sub>50</sub> = 330 mg/kg (mouse, i.p.)), byakangelicin, bergapten (LD<sub>50</sub> = 8.1 g/kg (mouse, oral)), isopimpinellin, oxypeucedanin, phellopterin, neobyakangelicol

[原色和漢薬図鑑 (上 p52) , Phytochemical Dictionary 2<sup>nd</sup> Edition, Dictionary of Plant Toxins]

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : B

局方に収載される重要な生薬であり、210 処方でも使用されている。

## 名称 バクジュツ

他名等 オオバナオケラ、オケラ

部位等 根茎 備考

学名(科名) ① *Atractylodes japonica* Koidzumi ex Kitamura, ② *A. ovata* De Candolle (= *A. macrocephala* Koidz.) (Compositae) キク科[局方]

生薬名、基原植物和名等 ①オケラ ②オオバナオケラ [局方] 生薬名 白朮 [局方]

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

漢方 210 処方に朮として配合されているもの 57 処方 (桂枝加朮附湯など)、白朮として配合されているもの 4 処方 (胃風湯など) 蒼朮・白朮の両方が配合されている処方 3 処方 (胃苓湯など)

毒性データ (LD50 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

sesquiterpenes: atractylon, 3 $\beta$ -acetoxyatractylon, 3 $\beta$ -hydroxyatractylon, atractylenolide I, II, III, eudesmol, hinesol, elemol, eudesma-4(14),7(11)-dien-8-one

ポリアセチレン化合物 atractylodine (少量)

[牧野和漢薬草大図鑑 (p540, 541) , 原色和漢薬図鑑 (上 p48) ]

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

ソウジュツ (*A. lancea* De Candolle または *A. chinensis* Kiudzymi) との区別。

atractylone はバクジュツに多く存在するが、確実ではない。

Botanical Safety Handbook Class 1 (*A. macrocephala* Koidz.)

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : B

局方に収載されており、多数の漢方処方に使用されるなどわが国では非常に重要な生薬である。

## 名称 バックダン

他名等 英名 white sandalwood (Com E)

部位等 心材・油 備考

学名(科名) *Santalum album* L. (Santalaceae) バックダン科[赤松和漢薬]

生薬名、基原植物和名等 バックダン [赤松和漢薬] 生薬名 白檀 [赤松和漢薬]

医薬品としての使用実態があるか Yes Com E

Com E によれば抗菌薬または鎮痙薬として煎剤の形で下部尿路感染症に補助的に処方する。油は腸溶性製剤としても用いる。

毒性データ (LD50 等) Sandalwood oils: LD<sub>50</sub> = 5580 mg/kg (rat, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

sesquiterpenes:  $\alpha$ - and  $\beta$ -santalol,  $\alpha$ - and  $\beta$ -santalene, acetylsantalol

terpenoids: santene, telesantalol, telesantallic acid, santallic acid, santenone, santenonalcohol

hydrocarbon : hentriacontan-16-one

[牧野和漢薬草大図鑑 (p30) , 原色和漢薬図鑑 (上 p180) , Phytochemical Dictionary 2<sup>nd</sup> Edition]

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 2d (腎臓の柔組織に関する疾病では禁忌。医師に相談せずに6週間以上服用すべきではない) (Com E の転載)

The Complete German Commission E Monographs 副作用として吐き気が知られている。また、皮膚のかゆみを引き起こす場合がある。腎臓の柔組織に関する疾病では禁忌。医師に相談せずに6週間以上服用すべきではない。

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

副作用としての吐き気や腎臓の疾病に対する禁忌が知られているため、使用には注意が必要である。

## 名称 ビャクブ

### 他名等

部位等 肥大根 備考

学名(科名) ①*Stemona japonica* (Blme) Miq. ②*S. sessilifolia* (Miq.) Miq. ③*S. ovata* Nak. (Stemonaceae) ビャクブ科[赤松和漢薬]

生薬名、基原植物和名等 ①ツルビャクブ②タチビャクブ③トウビャクブ [赤松和漢薬] 生薬名 百部

医薬品としての使用実態があるか No

かつては鎮咳、殺虫薬として、肺結核や百日咳などに応用され、またカイチュウ、ギョウチュウの駆虫薬としても応用され、また皮膚の疥癬、虱にも外用されたが、現在わが国では流通していないと思われる。

毒性データー (LD50 等)

Crude extract of *S. japonica*: TDLo = 20g/kg (mouse, subcutaneous)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

*Stemona* alkaloids

①stemonine, stemonidine, isostemonidine, protostemonine, stenine, tuberostemonine, hodordine, sessilistemonine

②stemonine, stemonidine, tuberostemonie, hodordine, sessilistemonine

同属の *S. tuberosa*: stemonine, tuberostemonine, isotuberostemonine, hypotuberostemonine, oxotuberostemonine, stemine, stenine

いずれも RTECS に毒性データーなし。tuberostemonine は一部の寄生虫に運動障害を起こす。

stemonine はカイコに対する殺虫効果がある。

[Pilli and Ferreira de Oliveira, *Nat. Prod. Rep.* 17, 117-127 (2000): *Stemona* alkaloids, 牧野和漢薬草大図鑑 (p612, 613), 原色和漢薬図鑑 (上 p75) ]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p612, 613), 原色和漢薬図鑑 (上 p75)

Pilli and Ferreira de Oliveira, *Nat. Prod. Rep.* 17, 117-127 (2000)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

ステモナルカロイドが含まれており、殺虫薬として用いられるものであるため、安全性に十分な配慮が必要である。

## 名称 ヒュウガトウキ

### 他名等

部位等 根 備考

学名 (科名) *Angelica furcijuga* Kitagawa (Umbelliferae) セリ科 (北川政夫、植物研究雑誌 第46巻第9号286ページ、昭和46年9月) 宮崎県、熊本県に分布するセリ科シシウド属の多年草。

生薬名、基原植物和名等 本種は、当帰の基原種であるトウキ *Angelica acutiloba* (Sieb. et Zucc.) Kitagawa とは同属植物であるが別種。分類学的にはトウキよりカワゼンコ *Angelicatenuisecta* (Makino) Makino に近縁とされている。(日本の野生植物) Flora of Japan (講談社 1999年) ではカワゼンコの変種扱い。

医薬品としての使用実態があるか No

毒性データー なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

coumarins [hyuganins A, anomalin, pteryxin, isopteryxin, isoeopoxypteryxin, praerosides II and IV, apiosylskimmin, (R)-peucedanol 7-O-β-D-glucopyranoside],

acetylenic compds (BPB, (2000), 48(10), 1429-1435 京都薬科 吉川先生

主要な生理活性

特許公報に Nomura K. K., Japan からの報告 5件 antitumor agent isoeopoxybuterixin for treatment of hepatitis and cancer, Hepatoprotective and nitric oxide production inhibitory activities : *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters* (1998), 8(16), 2191-2196 京都薬科 吉川先生

重要文献

その他注意すべき点

同じ系統に属するカワゼンコの類 (カワゼンコ、クマノダケ、ツクシトウキ) の食薬区分をどうするか。

既に非医扱いの通知が出ている (薬食発 0331009 号平成 16年 3月 31日)

インターネットによるとガン・糖尿病・C型肝炎・高血圧に効く。人体の老化を抑制。発毛効果や白髪を黒くする作用が注目を集めている、との宣伝がある。

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : D

様々な薬理作用が報告されている一方、安全性に関する情報が不足している。

## 名称 ヒヨス属

他名等 ヒヨス 英名 henbane, henbell hogbean

部位等 種子・葉 備考

学名(科名) ヒヨス *Hyoscyamus niger* L. (Solanaceae) ナス科

*H. agrestis* (シナヒヨス), *H. muticus* (西パキスタン～エジプト), *H. albus* (地中海地方) (Solanaceae)

ナス科

生薬名、基原植物和名等 生薬名 天仙子 シナヒヨスの種子 (var. *chinensis* Makino)

医薬品としての使用実態があるか Yes Com E Henbane leaf で収載p146

毒性データ (LD50 等) RTECS

(+)-hyocyanine i.v. mouse LD50 81 mg/kg; atropine reproductive effect: oral rat TDL0 437.5mg/kg; iv woman 26-39W preg TDL0 0.02mg/kg 毒性 oral human TDL0 0.033mg/kg.

scopolamine ラット経口 LD<sub>50</sub>: 2650mg/kg, マウス経口 LD<sub>50</sub>: 1275mg/kg, マウス腹腔 LD<sub>50</sub>: 400mg/kg  
マウス皮下 LD<sub>50</sub>: 1700mg/kg, マウス静注 LD<sub>50</sub>: 100mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Apoatropine, Hyoscine, Hyoscyamine (Tropane alkaloid)

総アルカロイド0.07% (奥田 天然薬物事典)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

チンキを鎮痛、鎮痙、副交感神経抑制薬として用いる

瞳孔散大、parasympatholytic (副交感神経遮断薬), anticholinergic (副交感神経遮断薬=抗コリン作用)

重要文献

Dictionary of Plant Toxins 他

その他注意すべき点

植物種により含量比が異なる、薬局方は硫酸アトロピンで規定、毒薬、指定

Botanical Safety Handbook なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

劇薬相当のアルカロイドを含む。

## 名称 フクジュソウ

他名等 ガンジツソウ、マンサク 英名 amur adonis (ただし *A. vernalis* L.)

部位等 全草 備考

学名 (科名) *Adonis amurensis* Regel et Radde (Ranunculaceae, キンボウゲ科) (赤松和漢薬) (難波はなし)

生薬名、基原植物和名等 和名フクジュソウ 日本には、フクジュソウ属はフクジュソウ (*Adonis amurensis* Regel et Radde) 1種しかない; *A. vernalis* (セイヨウフクジュソウ)

医薬品としての使用実態があるか Yes Com E

Pheasant's Eye herb, Adonis herba

毒性データ (LD50 等) RTECS

*A. vernalis* leaf extract i.v. guinea pig LD50 6.201mg/kg, oral cat LD0 32.5 mg/kg

*A. aurarius* infusion human oral, TDL0 4.95 mL/kg cat LD100 k-strophanthin 0.1606mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

強心配糖体を含む

Adonitoxin, LD<sub>50</sub> (Katze): 0.19 mg/kg (i.v.), cymarin, LD<sub>50</sub> (Maus): 0.1 mg/kg (i.v.)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cymarin, cymarol, corchoroside A, convallatoxin, K-strophanthin, *Adonilide*, *fukujusonorone*, Adonitoxin (強心配糖体 Cardenolide)

lineolone, isolineolone, adonilide, fukujusone, fukujusonorone, 12-O-nicotinoylisolineolone,

12-O-benzoylisolineolone, umbeliferone, scopoletin

主要な生理活性

ComE: Positively inotropic; animal experiments showed a tonic effect on the veins.

強心利尿薬

重要文献

[www.giftpflanzen.com/adonis\\_vernalis.html](http://www.giftpflanzen.com/adonis_vernalis.html) (毒性データ)

その他注意すべき点

BSH 記載なし

広くフクジュソウ属について規定していると考えられるべきではないか。*A. amurensis*ではCAはno hit  
指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

毒薬相当の強心配糖体を含む。名称をフクジュソウ属とすべきである。



## 名称 ブクシンボク

### 他名等

部位等 菌核に含まれる根 備考

学名(科名) 不完全菌類ブクリョウ {*Poria cocos* (Fr.) Wolf (Polyporaceae, サルノコシカケ科)} の松根中に増生して、未だ同化の完成しないもの(赤松和漢薬)

生薬名、基原植物和名等 茯神木：茯神中に含まれた松の根。茯神。マツホド(松の根に寄生)が寄生した松の根が正しい。菌核と一緒に刻んだものは茯神(芯)という。

医薬品としての使用実態があるか No 中薬大辞典・下冊 1600頁 項目番号3317 には掲載  
難波和漢薬に、「茯苓の中に松の根が通ったものを茯神と称し、後世一般に心病を治すには必ず茯神を用うとしているが、その根拠は虚弱である」との記述あり。

毒性データ(LD50等) 不詳

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか

不詳

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか

不詳

主要な二次代謝産物等

不詳

主要な生理活性

当然茯苓とは異なる。肝を平らかにして、神を安らげる。脚気転筋を治す(中薬大辞典)。心を寧んで精神を安らげる(中薬誌)。

強心利尿薬

重要文献

その他注意すべき点

医薬品の範囲基準ガイドブックの学名はブクリョウのもので間違い

BSH 記載なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価：D

成分情報がない。

## 名称 フクボンシ

他名等 ゴシヨイチゴ

部位等 未成熟集果 備考

学名(科名) ゴシヨイチゴ *Rubus chingii* Hu の未熟果 (Rosaceae) バラ科 韓国産のものは *R. Crataegifolius* Bunge, *R. coreanus* Miq. (以上難波和漢薬) 赤松和漢薬では、バラ科イチゴ属の果実と定義  
生薬名、基原植物和名等 覆盆子

医薬品としての使用実態があるか Yes ウチダ和漢薬で販売している

毒性データ (LD50 等) RTECS 同属のみあり

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油成分 Methoxy sec-Et acetate, Et acetate,  $\alpha$ -pinene,  $\beta$ -pinene, camphene junipene, limonene, p-cymene, linalool and terpineol, *Zhiwu Ziyuan Yu Huanjing* (1997), 6(2), 56-57, 60

Labdane-type diterpene glycosides from fruits of *Rubus foliolosus* (CPB (1991), 39(9), 2443-5 田中治先生)  
diosphenol-type triterpene fupenzic acid (*Phytochemistry* (1988), 27(12), 3975-6、難波先生) 栃本天海堂から購入した *R. chingii* (難波恒雄が剖検)の果。

ellagic acid (*Zhongcaoyao* (1981), 12(6), 19)

主要な生理活性

強壯、強精薬 インポテンツ、小便頻数等に用いる

prevention of skin allergy, roughness and aging and atopic dermatitis (124:352365 CA 一丸ファルコス Jpn. Kokai Tokkyo Koho, 10 pp

重要文献

*Phytochemistry*, 23, 615-621 (1984) 中国の甜茶(葉)の成分rubusosideは甘い。これは一応*R. chingii*とされたが、日本産のその葉は甘くない。甜茶の基源*R. suavissimus*と考えられる。実に関しては成分不詳。

その他注意すべき点

中国産甜茶=*R. suavissimus* (rubusosideを含む)は初め*R. chingii*と考えられた(ただし葉)。

BSH Class 2d Contraindicated in urinary difficulty 禁忌あり (実)

ComE *R. fruticosus*, *R. idaeus*があるが本植物の情報はない

sweetner rubusosideは同植物の葉より単離 *Agricultural and Biological Chemistry* (1981), 45(9), 2165-6

赤松の定義では広すぎ、難波の定義とすべき

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価:A

BSHに禁忌があり安全性に配慮が必要である。

## 名称 ブクリョウ

他名等 マツホド 英名 Poria Sclerotium (局方)

部位等 菌核 備考

学名(科名) *Poria cocos* Wolf (Polyporaceae) サルノコシカケ科(局方) = (*Pachyma hoelen*, Rumph.) (難波)

生薬名、基原植物和名等 マツホド(局方) 生薬名 茯苓

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方

210処方中74処方(苓桂朮甘湯、五苓散等々)に使用

毒性データ(LD50等) RTECS Danggui Shaoyao San (ブクリョウを含み7生薬からなる), water extracts, として oral rat TDL01.4g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

90%以上が多糖体pachyman ( $\beta$ -1,3 glucanの多糖体)からなる。その他ergosterol, lecithin, adenine, histidine, choline, 4環性トリテルペノイド: eburicoic acid, dehydroeburicoic acid, pachymic acid, tumulosic acid 3 $\beta$ -hydroxylanosta-7,9,(11),24-trien-21-oic acid等

(S)-(+)-turmerone, ergosterol peroxide, polyporenic acid C, dehydropachymic acid, pachymic acid, and tumulosic acid. *Archives of Pharmacal Research* (2004), 27(8), 829-833

Chemical components and molecular mass of six polysaccharides isolated from the sclerotium of *Poria cocos*: the main component of the sclerotium of *P.cocos*, was a linear (1.4 $\rightarrow$ 3)- $\beta$ -D-glucan of high purity. *Carbohydrate Research* (2004), 339(2), 327-334

主要な生理活性 免疫活性 強心利尿薬(薬徴)主として動悸、筋肉がピクピクと攣縮するものを治す。また、小便が出にくいもの、めまい、煩悶し(苦しく)てもだえるものを治す。多くの薬理活性は弱い(利尿、強心等)

重要文献

Hattori, T., *et al.*: 50, 477(1989); 和漢医薬学会誌, 8, 432(1991) Pachymanの糸球体腎炎の治療

その他注意すべき点

北米産のものも同一種とされている(難波) BSH 記載なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価: B

局方に収載されており 210 処方中 74 処方に用いられるなど医薬品として特に重要な生薬である。

## 名称 フジコブ

### 他名等

部位等 根茎 備考 茎（コブ・根茎以外）は非医

学名（科名）フジ: *Wistaria floribunda* DC. シナフジ: *W. sinensis* Sweet. (Leguminosae) マメ科

生薬名、基原植物和名等 生薬名（中薬大辞典、赤松和漢薬、和漢薬百科図鑑（難波）とも未収載）

医薬品としての使用実態があるか Yes

いぼとりの一般用製剤に使用 コイクシン（フジコブ、トウガシ、ヨクイニン、ヒシノミ、タクシャ含有）：剤盛堂薬品

毒性データ（LD50等）

RTECS *W. chinensis* DC（植物のもの） i.p. mouse LD50 >1g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか 不詳

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか 不詳

主要な二次代謝産物等

seedにはレクチン flowerで精油の文献はあり、フジコブとしての文献なし フジの成分検索があっても準用はできない。虫瘤とすればタンニンか。しかし瘤は細菌性である。

主要な生理活性

口内炎、歯肉炎、扁桃炎などを目標に藤瘤 1日量3~5gに300mLの水を加えて、1/3位になるまで煎じ詰めてこの煎汁でうがいをする。民間薬。ガン（胃がん、子宮がん）に効くといわれる。

重要文献

その他注意すべき点

部位を根茎というのはおかしい。（フジコブ菌が寄生し生じた）瘤とすべき

WTTC処方（民間に伝えられた薬草処方 千葉大医 中山恒明昭和34年6月 日本医師会雑誌第41巻第12号に発表との記述がネット上にあり）と言う名でフジコブ含有健康補助食品が売られている <http://www.e-taiyo.jp/kenkou/wttc/wttcindex.htm>等ガンに効くとの宣伝が多い。

BSH 記載なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：D

医薬品としての使用実態はあるが、成分情報がなく判断できない。